

「さいたま市下水道浸水対策計画（素案）」に対する意見募集結果

意見番号	ご意見の概要	該当するページ/条項	件数	ご意見に対する市の考え方	修正等の対応
1	今回の下水道浸水対策計画を策定するのではなく、 ・下水道長期計画に気候変動対策に係る部分を追加・変更にて対応することで認識でき、理解しやすくなると思う。 ⇒施策視点として「気候変動対策の強化」、施策として「都市型浸水対策の強化」、事業内容として「雨水貯留施設等のハード整備の推進」を追加する。 ⇒P16の図9-1を追加し、また、第4章や5章の中で追加・一部変更を行う。	16	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市では、下水道の基本的な方針や方向性を示す計画として、「希望つなぐ下水道プラン2030」（下水道長期計画）を策定しております。また、下水道長期計画の実効性を高めるため、施策の具体的取組内容と財政計画を盛り込んだ計画として、「さいたま市下水道事業中期経営計画」を策定しております。この2つの計画を結び付け、浸水対策の方針と対策方法等を示した「さいたま市下水道浸水対策計画」が必要となりました。</li> <li>今回の計画書の内容については、下水道長期計画 第5章 展開方針の「施策 I-1 浸水対策の推進」に該当することから、現在変更する予定はございません。しかしながら、ご意見のとおり長期計画への気候変動に関する記載が必要であると認識していることから、令和13年度からの新たな長期計画策定時の参考とさせていただきます。</li> <li>気候変動に関する記載につきましては、現在改定作業中である令和8年度からの次期下水道事業中期経営計画において目標を設定することにより、周知を図り、対策の推進と着実な進捗管理を実施してまいります。</li> </ul>	素案のとおりといたします。
2	テレビで報道されているような豪雨災害に比べると、さいたま市は災害に強く、約330億円を使うことに疑問を感じてしまう。	16	1	本市において、降雨の激甚化・頻発する豪雨、都市化の進展に伴い、浸水被害が毎年のように発生しています。また、気候変動の影響により、将来的な降雨量の増加がさらに見込まれています。安全で安心に暮らせる都市づくりを実現するためには、引き続き整備促進エリアの対策を着実に推進するとともに、国の通知に基づき、整備水準の見直しを行い、整備強化エリアの対策を推進していくことが必要と考えています。	素案のとおりといたします。
3	家に水が入るのは嫌なため、ぜひ止水板の設置費用を助成してください。	12	1	自助の取組を推進するため、今後、止水板の設置費用を助成する制度を検討してまいります。	素案のとおりといたします。
4	約330億円の浸水対策をすることで、市の財政は大丈夫か。 下水道料金の値上げに直結しないのか。	16	1	<p>本市において、降雨の激甚化・頻発する豪雨、都市化の進展に伴い、浸水被害が毎年のように発生しています。また、気候変動の影響により、将来的な降雨量の増加がさらに見込まれています。安全で安心に暮らせる都市づくりを実現するためには、引き続き整備促進エリアの対策を着実に推進するとともに、国の通知に基づき、整備水準の見直しを行い、整備強化エリアの対策を推進していくことが必要と考えています。</p> <p>この浸水対策の事業費につきましては、一般会計からの繰入金で賄われており、下水道料金の値上げに直結はしませんが、市の財政部門と事業費について協議しながら、事業を着実に進めてまいります。</p>	素案のとおりといたします。
5	道路側溝を50センチくらいの大きなものに変えれば浸水が減少しないか。少しでもお金を掛けたくない方法を考えてほしい。	16	1	下水道による浸水対策を実施する場合、雨水管・貯留施設等の整備が基本となりますが、道路側溝の新設・拡幅が有効であるケースもあるため、その場合は道路部署と連携して事業を進めてまいります。	素案のとおりといたします。

6	広範囲での浸水実績がない地区に多額の投資を行うことを疑問に感じる。必要な地区に重点投資しないと財政破綻する。	16	1	下水道による浸水対策のための施設整備は、膨大な費用と時間を要します。このため、浸水被害の状況や市民からの要望を踏まえ、優先して浸水対策を実施する地区として「整備促進エリア」を設定し、整備を推進しております。また、気候変動を踏まえた浸水対策を実施する「整備強化エリア」においては、浸水リスク・都市機能集積度を評価し、本計画で4地区選定しております。今後も、整備促進エリアや整備強化エリア等、優先度の高い箇所を中心に浸水対策を推進してまいります。	素案のとおりといたします。
7	西区指扇は昔から広範囲な浸水に悩まされている。岩槻区の諏訪公園調整池のように早期建設を切望する。	全般	1	西区指扇地区周辺は、ご指摘のとおり、大雨時に浸水被害が頻発している状況です。このことから、指扇地区周辺の浸水被害軽減を図るため、雨水貯留施設を計画しており、令和8年度の工事着手を目指しているところです。	素案のとおりといたします。
8	岩槻区では多くの生活道路がきれいに舗装されており、浸水対策も進んでいる。なぜ西区は置いてけぼりなのか。	全般	1	本市では、下水道による浸水対策を優先して実施する「整備促進エリア」を43か所設定しており、そのうち西区については6箇所設定しております。今後も引き続き、浸水被害の軽減に向けた施設整備を推進してまいります。	素案のとおりといたします。
9	図2-3 2024年に1時間降水量50mm以上の雨が7回観測されたというのは本当か	3	1	さいたま市では、各区の消防署や出張所など、複数の施設に雨量計を設置しており、雨量を観測しております。2024年は、観測地点はそれぞれ異なりますが、1時間当たり50ミリを超えた雨が7回観測されました。	素案のとおりといたします。
10	下の写真がどの場所か分かる とより身近に感じる	5	1	ご意見を踏まえ、素案を修正します。	写真の場所を追記しました。
11	図4-1 この計画は市内全域を対象としていないのか。そうであれば、タイトルの見直しが必要だと思う	8	1	本市では、下水道による浸水対策は市街化区域を対象としており、市街化調整区域に関しては河川部局で実施しています。本計画は、下水道による浸水対策についての計画であるため、タイトルは素案のとおりとさせていただきますが、いただいたご意見について、今後の参考とさせていただきます。	素案のとおりといたします。
12	表4-1 新都心地区が10年確率で整備完了していることは知らなかった。いいと思う。5年確率で整備が完了している割合を記載しては？図もあったら良い。	8	1	ご意見を踏まえ、素案を修正します。	2ページ目「2.1これまでの取組状況」に、令和6年度末時点の都市浸水対策達成率（概ね5年に1回程度発生する規模の降雨に対して整備が完了している区域の割合）を追記しました。
13	図2-5 平成8、10、12年の発生件数が突出しているのはなぜか。	5	1	平成8年では台風17号、平成10年では台風4・5号、平成12年は台風3号及び激しい雷雨により、それぞれ甚大に被害が発生したため、件数が突出したと思われます。また、浸水対策施設の整備が進んだことにより、近年の被害件数が減少してきていることも考えられます。	素案のとおりといたします。

14	図2-5 過去20年で、東日本台風があった令和元年を除けば件数はかなり少ない。市長も、さいたま市は災害が少ないと言っていた。そのような状況を踏まえても、数百億円をかけて大きな箱モノを作る必要があるのか。	5	1	本市において、降雨の激甚化・頻発する豪雨、都市化の進展に伴い、浸水被害が毎年のように発生しています。また、気候変動の影響により、将来的な降雨量の増加がさらに見込まれています。 安全で安心して暮らせる都市づくりを実現するためには、引き続き整備促進エリアの対策を着実に推進するとともに、国の通知に基づき、整備水準の見直しを行い、整備強化エリアの対策を推進していくことが必要と考えています。	素案のとおりといたします。
15	内水ハザードマップでは、広い範囲で浸水が想定されており実感がわからない。大きな被害があった令和元年台風19号の時の浸水発生箇所を図示して計画書に入れてほしい。また、令和2年8月の既往最大降雨時の浸水発生箇所も加えてほしい。	13	1	過去の降雨による浸水被害履歴については、さいたま市ホームページで公表されている「浸水履歴マップ」にてお調べいただけます。  トップページ >暮らし・手続き >安全・防災・消防 >防災 >ハザードマップ・防災カルテ >ハザードマップ >さいたま市浸水履歴マップについて	素案のとおりといたします。
16	夏にざっと降る雨で何度も道路が冠水します。 1時間55.5mmの降雨に対応するよりも、身近で困っている小さな降雨での道路冠水をなんとかしてほしい。側溝が小さくすぐに溢れる。	16	1	雨水管・貯留施設等のほか、道路側溝の新設・拡幅や雨水柵の増設等も含め、地域の実情に応じた整備を検討し、道路部署と連携して対策を実施してまいります。	素案のとおりといたします。

## ■ 集計結果

意見提出者数	7名
意見項目数	16件
修正項目数	2件